

プロロジス、アースデイに賛同し 全国の物流施設 46 棟で内照式看板を消灯

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役会長 兼 CEO:山田 御酒)は、地球の環境問題について考える記念日「アースデイ」に賛同し、4月22日の夜間、全国で運営中の賃貸用物流施設「プロロジスパーク」の夜間消灯を行います。

消灯に取り組むのは全国で運営中のプロロジスパーク87施設のうち46施設です。該当の全物流施設で、外壁に掲出された企業ロゴを消灯するほか、一部の施設では、エントランス間接照明、通路の一部、休憩室の一部、風除室、エレベーターホールの一部等の共用部も消灯し、施設利用者や訪問者への啓発に努めます。

プロロジスは、2013年4月22日よりこの取り組みを開始しました。2013年は、関東の物流施設2棟で実施し、徐々に規模を拡大。昨年は、一般社団法人不動産協会 物流事業委員会の呼びかけにより、同委員会参加企業のうちアースデイの趣旨に賛同した各社にて連携し実施しました。また、プロロジスパークの入居企業にも協力を依頼し、賛同各社も施設外壁に掲出された企業ロゴの消灯に応じました。

今年、プロロジスとともに消灯に取り組む入居企業は、アークランズ株式会社、アマゾン京田辺フルフィルメントセンター、エレコム株式会社、株式会社スズケン、鈴与株式会社、センコー株式会社、株式会社タカラトミー、ニプロ株式会社、武州製薬株式会社、株式会社ヤオコー、ユーピーエス・ジャパン株式会社ほか、全12社です。

■ プロロジスのネットゼロに向けた取り組みと「プロロジス・グリーン・ソリューション」

プロロジスは2040年までに、バリューチェーン全体(スコープ1・2・3)で温室効果ガス排出のネットゼロを目標としており、温室効果ガス削減のためのさまざまな施策を展開しています。また、プロロジスの事業運営における削減にとどまらず、入居企業の電力グリーン化・環境負荷軽減を支援する「プロロジス・グリーン・ソリューション」を進めています。2023年1月には東京オフィス内に「エネルギー事業室」を新設。新規エネルギー事業や、再生可能エネルギーの活用に取り組むとともに「プロロジス・グリーン・ソリューション」の一環としてカスタマーの電力グリーン化を支援しています。



＜電力使用量削減への取り組み例＞

太陽光発電の自家消費・余剰自己託送	● 物流施設の屋根面への太陽光発電パネル設置により、合計約 80MW を発電。発電した電力の自家消費や、余剰電力の他施設への自己託送などを実施。 https://www.prologis.co.jp/solutions/energy
センサー付き LED 導入 推進・物流施設用の LED 照明の開発	● 物流施設の階段やトイレ等、共有部に人感センサーLED を採用し、事務所部分の照明には外光の明るさに応じて照度を調整する昼光センサーを採用。 ● 既存 LED 照明比で電力使用量を 56%削減可能な高天井用のセンサー付き LED 照明を共同開発し、物流施設に導入。 https://www.prologis.co.jp/press-releases/181010
電気使用量等を可視化する「プロロジススマートボックス」	● 物流施設内のカスタマー毎の電気・水道使用量や、気温、湿度、雨量、風速、地震などの環境データを詳細かつリアルタイムに取得・分析し、環境負荷を低減。

プロロジスは、今後も環境に配慮した事業運営を目指すとともに、カスタマーのサステナビリティに関する目標達成をサポートしてまいります。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
<https://prologis.form.kintoneapp.com/public/inquiry-media>